

巻 頭 言

生活環境学科から環境デザイン学科と名称変更し1年が経ちました。幸い、入学志願者数も急激に増加し、従来の建築・インテリアデザインコース、服飾デザインマネジメントコースに加えて、プロダクトデザインコース、できて1年目のデザインプロデュースコースも順調に入学志願者を集め、今や人気の学科に返り咲かんとしております。

1992年のバブル崩壊、2006年姉齒事件、2008年サブプライム事件と、建築・インテリアには厳しい時代が続いていますが、現代はデザインの重要性が浸透し、ファッションや工業製品、広告宣伝はオシャレなものが多くなりました。デザインが悪ければ100円ショップ、デザインが良ければ飛ぶように売れる。スーパーやディスカウント店が潰れ、激安100円ショップとブランドショップの二極化の時代。そんな流れの中で、環境デザイン学科はたいへん注目を集めています。

本学科出身の卒業生からは多くのデザイナーやデザインのわかるコンシェルジュ、コーディネーターも育っています。ルイ・ヴィトンの店舗デザインなどで著名な建築家・永山祐子さん、神田うのさんと共同デザインしているファッションデザイナーの宇高絵美さんなど。これからも多くの著名なデザイナーが輩出すると期待されます。

一方、坂東学長からはデザイナーも女性の品格が重要と言われております。環境デザイン学科のデザイン分野は、建築にしても服飾にしてもプロダクトにしても、みな一流企業を相手に、また一流企業の中で活躍し育つ分野です。そのため、環境デザイン学科の学生募集に際しては社会的品格を不可欠な要素としています。私としては、環境デザイン学科は学長の方針通りの学科であると考えております。

本紀要にもその様子はあらわれ、デザイン関係の論文や報告が多くなりました。また、「平成21年度 卒業論文・設計・制作題目一覧」を併せて掲載していますが、やはりデザイン関係の制作がたいへん多くなっています。

昭和女子大学の中では少し雰囲気異なる環境デザイン学科の紀要となりましたが、学科の現状の一端を示すものとしてご覧いただけると幸いです。

(環境デザイン学科長 友田博通)